

- ・思いやりのこころでつなぐ人間らしいゆとりのある暮らしの創造
- ・参加・自主・自立で学び成長する多数者組織の実現
- ・協同と連帯がはぐむ組織と地域社会の発展



〈現在までの支援活動〉 2011年3月～2012年2月  
●詳しくは「くらしとなかま」3月号参照

内容	時期
被災地職員派遣(10チーム計20名) お見舞い活動、移動販売、店舗支援、共済加入者訪問、仲間づくり支援	3月～7月
被災地ボランティア(3チーム計18名)	8・9・10月
カゴ車の提供	3月
喪服の提供	7月
募金<5,512万4,730円>	3月～10月
宅配での復興支援金<508万9,002円>	5月～12月
店舗での応援セール募金<15万8,880円>	5・7・11月
経営カンパ	7月
仮設住宅灯油支援募金<1,017万780円>	12月
「ハートフルメッセージ」に花の種を添えて贈呈	4月～5月
被災地・被災メーカーへのビデオレター	8月
「福島日本舞踊サークル夏合宿」支援	8月
「Happyフードパーク」での被災地支援コーナー	10月
AMDAを通じた支援	3月～現在

## 「忘れない3.11」企画

- 宅配** 「復興支援企画」  
2012年4月1回～2013年1月5回
- 店舗** 「東北支援企画」と防災フェア(3月9日～12日)  
「プロジェクト+36℃(下記)」に賛同し、募金箱の設置

- 「子どもたちの3.11ユニセフ東日本大震災報告写真展」の後援  
日本ユニセフ協会主催3月9日～11日岡山市デジタルミュージアム
- 「大槌高校吹奏楽部コンサート」の共催  
AMDA主催:3月19日(月)オルガホール
- 「プロジェクト+36℃」キックオフへの賛同と協力  
今夏に岡山7大学の学生ボランティアを被災地の仮設住宅入居者の話し相手として派遣するプロジェクト
- 「東日本大震災チャリティーコンサート」  
岡山YMCA主催:3月16日(金)岡山市市民会館

**その他**

「くらしとなかま」  
2月号・3月号  
2冊セット  
送料別

「元気」  
2月号・3月号  
2冊セット  
送料別

バッジや「お守りカード」、  
車両ステッカー、  
店舗ポスターの貼付・掲示

**広報**

「くらしとなかま」  
3月号特集  
「いつも心はそばに  
～東日本大震災から一年～」  
山陽新聞「くらしをつくる」vol.11  
3月11日朝刊

**「このクロワッサンに助けられた」**  
全国の生協の連携を実現

津山センター 仲間つくり担当 井上さんの日報より

昨日(2/16)、1個配を利用したこのお電話をいただき、本日の対応に感謝しました。そのお礼として、訪問して、4歳のお子さんがパンを持って行っていたモーニングクロワッサンに気づき、渡すとその場で食べました。お子さんは「おいしい」と喜んでくれたので、うれしくなり、話をすすめていくと、この方は昨年8月に仙台から越えてくれた方で、「震災後の日付はわからないけれど、クロワッサンが食べられなかった。」「お母さんがあつちやいました。全国の生協でこやと連携して、被災地の方のお役に立てて見たら、話で聞いたりするとは違っていました。書面でお役に立てたこと、うれしく思います。お役に立てたこと、もっともっと生協の輪を広げていきたい」と改めて決意しました。

## 忘れないあの日を つながろうこれから

昨年3月11日に発生した東日本大震災から一年。これまでの支援を振り返るとともに、今後の取り組みを紹介します。

## 復興支援金と「思い」を届けに

昨年5月から12月に宅配で取り組んだ「復興支援企画『eats』の表紙・裏表紙と「キャロット」企画全品を対象にした「1点1円」の募金」には、組合員さんから多くの支援が寄せられました。CSネット全体で18,669,762円(内おかやまコープ分508万9,002円)に上った復興支援金は、被災5メーカーに各60万円、残りは被災地の7生協に被災状況に応じて贈ることとなりました。被災メーカーには中国5県の生協の専務が2月から3月初めに訪問して贈呈し、被災生協に対しては3月8日に仙台で開催された「つながろうCO・OPアクション全国交流会」で贈呈式が行われました。平田専務は2月16日に岩手県を訪れ、あい鴨鍋などのメーカーであるアマタケ(株)に復興支援金を贈呈。同社の皆さんと昨年8月末以来5か月半ぶりの再会を果たし、これまでの復旧の状況などをお聞きしました。AMDA大槌健康サポートセンターと大槌高校では、現地の方々と交流を行いました。以下に平田専務のレポートを紹介します。

また、平田専務と同行した徳山店舗運営G統括は「現地の状況を見ると復興までの道のりは遠く、これからも支援を続けることが必要と感じた」と感想を話していました。

### 平田専務のレポートより

「支援金は本当に嬉しい」  
アマタケ株式会社

陸前高田にあらたに工場を閉鎖されたままですが加工を集中した大槌の本社工場は、ライオン増設や新商品の開発が進みつつあります。そんな中、帰国して外国人留学生も数人復社されたそうです。大槌渡市は比較的復旧も早そうですが、それでも市民調査では

アマタケ(株)の甘竹相談役に目録を贈呈

大槌渡小学校

訪問中に見かけた若い母子、この子は震災後仮設で産まれたのだろうか、飯食から登校している子どもはいるだろうか、毎朝、教室の窓

大槌渡小学校  
当時避難所になっていた、高台にある小学校に行きました。建てた所が少ないため、校庭に仮設住宅が所狭しと建設されていて、子ども達は遊ぶすべも溜まっている様子です。1新入生は卒業するまで運動会ができないのでは、この話も聞きました。

大槌渡小学校  
大槌渡市は比較的復旧も早そうですが、それでも市民調査では

はつきり地元に残る意向の方は五割で、依然多くの方が迷っている現状のようです。

「忘れられたり、風評被害が一番悲しい中で今回の支援金は本当に嬉しい」と大変喜んでいただきました。

**校庭に仮設住宅が並ぶ**

大槌渡小学校  
当時避難所になっていた、高台にある小学校に行きました。建てた所が少ないため、校庭に仮設住宅が所狭しと建設されていて、子ども達は遊ぶすべも溜まっている様子です。1新入生は卒業するまで運動会ができないのでは、この話も聞きました。

生徒の姿に未来を見た

大槌高校

3月19日にオルガホールでコンサート(※)が行われる大槌高校吹奏楽部

右奥に寄席の時計が掛かる

から仮設住宅を見ている子供たち、ちはなど、いろんなことを感じさせられました。

来所者を時計が見守る  
AMDA大槌健康サポートセンター  
AMDA基金から贈呈した木製の時計が大切に飾ってあり、少し狭いスペースの中で、陽を受けながら手に作り込んでいました。

吹奏楽部の練習風景

高橋校長先生の名刺には、あいさつの高さがありましたが、生徒も教師も全員が、素晴らしいです。こちらが、すがすがしい位置でしたが、心地よく校風として根づいている練習中にも関わらず14名の部員の方と顧問の金丸先生に(お土産に持参した)楽器のクリーナーを渡すことができました。

復旧が厳しい大槌町ですが、素朴で礼儀正しい生徒たちの練習風景を見て、未来が垣間見えました。全員初めての岡山で3月19日にお会いします。

(※)「忘れない3.11」企画を参照

を訪ねました。AMDAを通じて二回目の支援物資が運び込まれた体育館のある学校です。

高橋校長先生の名刺には、あいさつの高さがありましたが、生徒も教師も全員が、素晴らしいです。こちらが、すがすがしい位置でしたが、心地よく校風として根づいている練習中にも関わらず14名の部員の方と顧問の金丸先生に(お土産に持参した)楽器のクリーナーを渡すことができました。

復旧が厳しい大槌町ですが、素朴で礼儀正しい生徒たちの練習風景を見て、未来が垣間見えました。全員初めての岡山で3月19日にお会いします。

(※)「忘れない3.11」企画を参照